

果樹の生育状況等について

I 生育状況

4月下旬に気温が平年よりも低い日が多かったことから、生育の進みはブレーキがかかったものの、各樹種とも平年より進んでいる。

1 りんご

「ふじ」の落花日は、三戸町で平年より11日早く、八戸市で12日早かった。

表1 りんごの生育ステージ

調査地点	品種	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
三戸町 梅内	ふじ	本年	3/23	4/ 2	4/21	4/28	5/ 4
		平年	4/ 6	4/16	5/5	5/10	5/15
		前年	4/ 6	4/12	4/27	5/ 5	5/10
		平年差	-14	-14	-14	-12	-11
	ジョナゴールド	本年	3/22	4/ 1	4/20	4/28	5/ 3
		平年	4/ 4	4/15	5/ 4	5/10	5/16
		前年	4/ 5	4/12	4/26	5/ 4	5/ 9
		平年差	-13	-14	-14	-12	-13
八戸市 櫛引	ふじ	本年	3/23	4/ 4	4/24	4/30	5/ 5
		平年	4/ 7	4/19	5/ 7	5/12	5/17
		前年	4/ 5	4/12	4/27	5/ 3	5/ 8
		平年差	-15	-15	-13	-12	-12
	王林	本年	3/22	4/ 1	4/20	4/24	5/ 4
		平年	4/ 4	4/16	5/ 4	5/10	5/14
		前年	4/ 3	4/11	4/26	5/ 1	5/ 7
		平年差	-13	-15	-14	-16	-10

※平年値：2001～2020年の20年間平均

2 おうとう

「佐藤錦」の落花日は、南部町で平年より6日早く、八戸市で9日早かった。

表2 おうとう「佐藤錦」の生育ステージ

調査地点	年	催芽日	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
南部町 高瀬	本年	3/24	4/ 7	4/21	4/17	4/20	5/ 4
	平年	4/ 1	4/18	4/28	4/26	4/29	5/10
	前年	4/ 2	4/13	4/27	4/22	4/24	5/ 6
	平年差	-8	-11	-7	-9	-9	-6
八戸市 南郷大森	本年	3/24	4/ 6	4/21	4/19	4/21	5/ 5
	平年	4/ 3	4/23	5/ 2	5/ 2	5/ 4	5/14
	前年	4/ 3	4/13	4/24	4/24	4/25	5/ 7
	平年差	-10	-17	-11	-13	-13	-9

※平年値：南部町高瀬 2013～2022年の10年間平均、
八戸市南郷 2003～2022年の20年間平均

3 もも

「川中島白桃」の落花日は、南部町で平年より8日早く、八戸市で9日早かった。

表3 ももの生育ステージ

調査地点	品種	年	発芽日	開花日	満開日	落花日
南部町 相内	あかつき	本年	3/31	4/14	4/16	4/26
		平年	4/ 8	4/26	4/29	5/ 6
		前年	4/ 8	4/21	4/24	4/30
		平年差	-8	-12	-13	-10
	川中島 白桃	本年	4/ 1	4/15	4/20	4/30
		平年	4/ 8	4/26	4/30	5/ 8
		前年	4/ 9	4/23	4/25	5/ 4
		平年差	-7	-11	-10	-8
八戸市 櫛引	川中島 白桃	本年	4/10	4/18	4/19	5/ 4
		平年	4/15	5/ 1	5/ 4	5/13
		前年	4/11	4/23	4/26	5/ 7
		平年差	-5	-13	-15	-9

※平年値：相内 あかつき 2003～2022年の20年間平均、
川中島白桃 2013～2022年の10年間平均
櫛引 2003～2022年の20年間平均

4 西洋なし

「ゼネラル・レクラーク」の落花日は、平年より12日早かった。

表4 西洋なし「ゼネラル・レクラーク」の生育ステージ

調査地点	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
南部町 大向	本年	3/28	4/14	4/20	4/22	4/29
	平年	4/ 7	4/27	5/ 3	5/ 5	5/11
	前年	4/ 7	4/22	4/26	4/27	5/ 4
	平年差	-10	-13	-13	-13	-12

※平年値：2003～2022年の20年間平均

5 すもも

「大石早生」の落花日は、平年より17日早かった。

表5 すもも「大石早生」の生育ステージ

調査地点	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
三戸町 梅内	本年	3/21	4/10	4/10	4/11	4/17
	平年	3/31	4/24	4/25	4/27	5/ 4
	前年	3/31	4/21	4/20	4/21	4/28
	平年差	-10	-14	-15	-16	-17

※平年値：2003～2022年の20年間平均

6 うめ

「豊後」の落花日は、平年より15日早かった。

表6 うめ「豊後」の生育ステージ

調査地点	年	発芽日	開花日	満開日	落花日
南部町 高瀬	本年	3/10	4/ 4	4/ 6	4/12
	平年	3/21	4/16	4/20	4/27
	前年	3/21	4/12	4/13	4/22
	平年差	-11	-12	-14	-15

※平年値：2008～2022年の15年間平均

7 ぶどう

「キャンベル・アーリー（露地）」の展葉日は、平年より7日早かった。「キャンベル・アーリー（ハウス）」の展葉日は、平年より3日早かった。

表7 ぶどうの生育ステージ（露地）

調査地点	品種	年	催芽日	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
南部町 沖田面	キャンベル・ アーリー （露地）	本年	4/ 7	4/19	4/30			
		平年	4/16	4/25	5/ 7	6/13	6/16	6/20
		前年	4/12	4/21	4/30	6/ 6	6/11	6/14
		平年差	-9	-6	-7			

※令和5年度から担当農家変更。平年・前年平年差は参考値

表8 ぶどうの生育ステージ（ハウス）

調査地点	品種	年	催芽日	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
三戸町 梅内	キャンベル・ アーリー （ハウス）	本年	3/30	4/ 3	4/12			
		平年	3/29	4/ 5	4/15	5/14	5/17	5/21
		前年	3/28	4/ 5	4/18	5/12	5/14	5/19
		平年差	+1	-2	-3			

※平年値：2003～2022年の20年間平均

※キャンベル・アーリー（ハウス）のビニール被覆：3/16（平年：3/17、前年3/23）

II 今後の対策・指導等

生育が進んでいることから、各樹種とも生育に合わせて管理作業を適期に行う。

4月下旬は平年よりも気温が低い日や風の強い日が多かったことから、結実への影響が懸念されるので、結実状況を見極めてから摘果を実施する。

樹種によっては生育がかなり進んでいることから、薬剤散布は適正な間隔を守るため、必要に応じて追加散布を行う。

2 りんご

(1) 薬剤散布（要検討）

黒星病や黒点病などの重要な防除時期なので、「ふじの落花20日後頃」までは、

基準散布量を守り、10日間隔で降雨前の散布を徹底する。

生育が進んでいることから、薬剤の散布適期は例年より早まっているので、今後の散布計画を確認する。散布間隔が空き過ぎると見込まれる場合は、5回目の「ふじの落花20日後頃」と6回目の「6月中旬」との間に追加散布を実施する。

(2) 摘果

摘果は、結実が明らかになった品種や樹から実施する。大玉生産のためには、早期適正着果が基本となるので、結実量が多く、摘果作業が遅れそうな園地では、積極的に摘果剤を使用する。

霜害がみられる園地では、えき芽果や不要な果そうの摘果にとどめ、障害が確認できるようになってから仕上げ摘果を行う。

(3) 腐らん病対策

近年、腐らん病の発生が多いため、見つけ次第、適切に処分する。枝腐らんは切り取って処分し、胴腐らんは削り取って有効薬剤を塗布するか泥巻きを行う。

(4) 黒星病対策

りんご研究所での殺菌剤無散布樹における葉上病斑の初発は5月3日（平年5月13日）に確認されている。

被害葉や被害果は見つけ次第、摘み取って土中に埋めるなどして処分する。

2 おうとう

着果が多すぎて品質の低下が懸念される場合は、実止まりが確認された後、花束状短果枝当たり2～3個残して摘果する。摘果する果実は、障害果や病虫害被害果、肥大の劣るものを優先して行う。

3 もも

(1) 摘果

生理的落果を考慮して、満開20～30日後頃（5月中下旬）とその10～20日後頃（6月上中旬）の2回に分けて行う。1回目は、横向きから下向きに着生した大きめの果実を残す。

(2) せん孔細菌病対策

伝染源となる春型枝病斑は4月から見え始め、開花以降も発生が続くので、定期的に園地を見回り、見つけ次第切除し、園地から持ち出して適切に処分する。特に、1年枝にできる紫褐色の病斑や幼果が枯死している枝等に注意し、見逃さないようにする。



せん孔細菌病の春型枝病斑

4 西洋なし

(1) 摘果

予備摘果は、結実が明らかとなった品種や樹から実施する。

(2) 輪紋病対策

伝染源になる枝幹部のいぼ病斑は、胞子の飛散が始まる5月下旬までに削り取って、塗布剤を塗布する。

5 すもも

予備摘果は、果形が確認できる頃（目安としては満開30日後以降）に行う。

黒斑病の発生が多い園地では、伝染源となる春型枝病斑を見つけ次第、切り取って処分する。

6 うめ

果実が小指大の大きさの時期（満開20～25日後頃）に、収穫期に果実が肥大しても互いに触れ合わない程度の間隔に摘果する。豊後や節田などで3～5cmに1果、八助などの大玉品種で5～6cmに1果とする。

7 ぶどう

養分の競合や新梢の過繁茂を防ぐため、摘芽や摘梢を行う。樹勢に応じて2～3回に分けて行い、花穂の発育の良い中庸な新梢を残す。なお、霜害のおそれのある場所では、晩霜がなくなってから最終本数を決める。

【農薬使用基準の遵守】

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。